

観戦を120% 楽しむ方法

ラリーを観戦に行きたいけれど楽しむにはいったいどうすればいいの？
ここではそんな疑問にズバッとお答え！
これさえ読めば観戦が
いっそう楽しくなること請け合いです

まずはお気に入りの選手と ラリーカーを見つけよう

どんなスポーツでも同じですが、まずは自分のお気に入りの選手やクルマを見つけてみましょう。たとえば出身県が同じ選手や、マイカーと同じラリーカーなど、それだけでも全日本ラリーがグッと身近なものになるはずです。興味が湧いたらその選手の過去の戦績なども調べてみましょう。16ページからの選手名鑑には昨年のチャンピオンと主な選手53人が掲載されているので、ぜひチェックしてください。



ラリーによってはサイン会イベントも開催される。あこがれの選手にもらったサインは宝物になるはず！

どこ行く？ 主催者の ウェブサイトをチェック

2012年の全日本ラリーは全9戦。文字どおり日本各地で開催されているので、初めて観戦するのであれば、まずは近くのラリーに行ってみるのがいいでしょう。ラリーの仕組みや観戦のリズムに慣れてきたら、遠くのラリーに観光も兼ねて出かけるのも楽しみ方のひとつです。

どのラリーも地域とのつながりを大切にしており、祭りや他のイベントと同日開催しているところもあります。各主催者は公式ウェブサイト을設けているので、最新情報をチェックしてみましょう。特に、国際格式であるアジア・パシフィックラリー選手権と併催されるラリー北海道などは大会の規模が大きく、各地から大勢の人が集まります。20ページからの観戦ガイドで各ラリーを紹介していますのでご参考に。



タイムスケジュールや観戦情報だけでなく、併催イベントの情報も。観戦前にはスミまでチェックしておこう。

ギャラリーステージはタイスケを要チェック

スペシャルステージ区間は自由に観戦できるわけではありません。各ラリーでその数は異なりますが、観客の安全を考慮した観戦エリアが設けられています。主催者のウェブサイトや公式プログラムを参考に、お目当ての選手を見逃さないようにしましょう。また、ラリーによっては観戦ポイントがステージの中に設けられていることもあります。その場合は競技が始まる前に移動を終えなければなりませんし、全車が走行を終えるまで2〜3時間、出られないこともあります。スケジュールは必ず調べましょう。



オフロードコースを使用した観戦ステージでは、走行中の移動ができる場所も(写真はラリー北海道)。

観戦は屋外。アウトドア装備は必須！

ラリーのギャラリーエリアは、一部を除いて山の斜面などに設けられることもあります。また、ギャラリーエリアに向かうために距離を歩いたりしますので、動きやすく、少しくらい汚れても大丈夫な服装での観戦をオススメします。虫よけスプレーなどのグッズも有効ですが、できれば長袖長ズボンが好ましいでしょう。雨天に備えてポンチョやレインコートも欠かせません。カサは周囲の観戦者の邪魔になる場合があるので避けた方がいいでしょう。



ポンチョは観戦に必須の装備です。カサでは周囲の邪魔になる場合があるだけでなく、山道の移動も大変。また、グラベルラリーの観戦時には長靴があると万全です。

グラベルとターマック どっちのラリーを観る？

2012年の全日本ラリー選手権はグラベル(未舗装路)6戦、ターマック(舗装路)3戦で構成されています。グラベルとターマックでは路面の摩擦係数が異なるため、各ラリーカーは路面に合わせてタイヤ、ホイール、サスペンションなどを交換して臨みます。

グラベルでは車高を高めにセットし、路面からの大きな入力を受けとめられるようタイヤも扁平率の高いものを装着します。逆にターマックでは車高を低くし、大径ブレーキのために大きなホイールを装着。タイヤの扁平率は低くしハンドリングを向上させています。

ラリーカーのダイナミックな動きを楽しむならグラベルラリー、ドライバーの繊細なテクニックを楽しむならターマックラリーがオススメです。



ターマック(上)とグラベル(下)ではドライビングテクニックも大きく異なります。

サービス時間も見逃さない!

お気に入りの選手のサインがほしい場合は、サービスの時間をチェックして、サービスパークにレッツゴー! ほとんどの場合は快く応じてくれるはずですが、選手たちはあくまでも競技中、真剣勝負のさなかであることを忘れてはいけません。

また、選手の写真を撮影する場合もひと言尋ねてからがベストなマナーです。もちろんマシンは整備中なので、むやみに近づいたりするとメカニックたちの作業の邪魔になる可能性もあるので注意しましょう。



ラリーによっては安全のために柵が設けられているところもありますが、ない場合は十分に注意して。

その土地ならではのグルメや名所を堪能しよう



写真は北海道のジンギスカン。食べ歩きをお目当てにして観戦するラリーを決めるのもアリかも!

全国各地で開催される全日本ラリーに行ったら、その土地ならではのおいしいものや歴史的な名所も楽しみのひとつです。こちらも20ページからの観戦ガイドに各ラリーの“名物”を紹介していますのでご参考に。もっと探せば関係者も知らない隠れたグルメがあるかもしれません。

記者会見も見学可能!

現在は、ラリー競技前後の記者会見を一般のギャラリーに公開しているイベントも多くみられます。ラリー後は各クラスの優勝クルーが一堂に会し、そのラリーで何が起きたのか、選手たちにしか分からないことが彼ら自身の口から語られます。ラリーを戦い終えた直後の選手たちの生の声を直接聞くチャンスです。



記者会見はサービスパークに隣接した場所の特設会場などで行なわれます。選手が語る意気込みに耳を傾けてみましょう。

リエゾン写真も狙ってみよう

ギャラリーエリアは、安全のために道路よりも高い場所や少し離れた場所に設けられることが多く、マシンが大きく写った写真を撮影するとなかなか難しいもの。ですが、リエゾンの移動区間はラリーカーも一般の交通に混じって走り、もちろん立ち入り禁止区間はありません。

その土地ならではの風景を見つければ、歩道からのシャッターチャンスも広がることでしょう。もちろん、撮影に集中しすぎて車道に出たり、地域の方々の迷惑や他の交通の妨げになるような行為はくれぐれも慎んでください。



春は道端の花を、秋は紅葉を活かす構図など、四季折々の風景を入れ込んだ写真は工夫のしがいがあるというもの。リエゾンでは選手も手を振ってくださります。



モータースポーツには危険がともないます

ラリーに限らず、モータースポーツ観戦には危険が伴います。主催者の指示に従い、危険な場所には近づかないようにしましょう。また、観戦エリアであってもラリーカーがコースアウトしたりクラッシュした部品が飛んでくる可能性もゼロではありません。走行中はなるべくコースに背を向けたりせず、いつでも逃げられる態勢でいる必要があります。



一瞬のテクニックを見逃すな!

ラリーはサーキットと違い、一度通過したクルマはすぐには戻ってきません。そのため、観戦エリアに行ってもラリーカーが目の前を通過するのはほんの一瞬です。ですが、エスケープゾーンもない非常に狭い林道を、コ・ドライバーのベースノートを頼りに、信じられないようなスピードで駆け抜ける様子は理屈抜きに楽しめます。またJRCAに入会すれば、SSタイム速報のメール配信サービス（携帯メール可）が受けられます（現時点ではJN4クラスのみ）。



ひとつのミスが勝負の行方を大きく左右するスペシャルステージ。緊張感あふれるアタックを堪能しよう。